

平成28年度第4回

# 中小企業景況調査報告書

平成29年	1月～	3月期	報告
平成29年	4月～	6月期	予測

千葉県商工会連合会

# 中小企業景況調査報告書

平成29年1月～3月期

## 調査要領

### 1. 調査対象

#### (1)対象地域

11 商工会地域 勝浦市商工会、袖ヶ浦市商工会、旭市商工会、野田市関宿商工会、南房総市朝夷商工会、印西市商工会、大網白里市商工会、成田市東商工会、東庄町商工会、富津市商工会、長柄町商工会

(2)対象企業数 165 企業(11 商工会×15 企業)

(3)回答企業数 165 企業

2. 調査対象期間 平成29年1月～3月を対象とし、調査期間は平成29年2月22日～3月1日である。

3. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問面接調査。

#### (1)産業別構成

業種	回答企業数	構成比
製造業	28	17.0%
建設業	28	17.0%
小売業	44	26.7%
サービス業	65	39.4%
合計	165	

(小数点1位以下四捨五入)

#### (2)業種別構成

##### ① 建設業

業種	回答企業数	構成比
総合工事業	13	46.4%
職別工事業	13	46.4%
設備工事業	2	7.1%
合計	28	

(小数点1位以下四捨五入)

② 製造業

業 種	回答企業数	構成比
食料品製造業	11	39.3%
飲料・飼料・たばこ製造業	2	7.1%
家具・装備品製造業	1	3.6%
パルプ・紙・紙加工品製造業	1	3.6%
金属製品製造業	3	10.7%
一般機械器具製造業	2	7.1%
精密機械器具製造業	1	3.6%
その他製造業	7	25.0%
合 計	28	

(小数点1位以下四捨五入)

③ 小売業

業 種	回答企業数	構成比
各種商品小売業	1	2.3%
織物・衣服・身の回り品小売業	6	13.6%
飲食料品小売業	22	50.0%
家具・建具・じゅう器小売業	4	9.1%
その他小売業	11	25.0%
合 計	44	

(小数点1位以下四捨五入)

④ サービス業

業 種	回答企業数	構成比
一般飲食店	23	35.4%
宿泊業	4	6.2%
運送業	3	4.6%
自動車整備業	13	20.0%
洗濯・理美容業	12	18.5%
その他のサービス業	10	15.4%
合 計	65	

(小数点1位以下四捨五入)

本報告書中の[DI 値]とあるのは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(好転、上昇)企業割合から、減少(悪化、低下)企業割合を差し引いた値を示すものである。

## I. 県下中小企業の景況

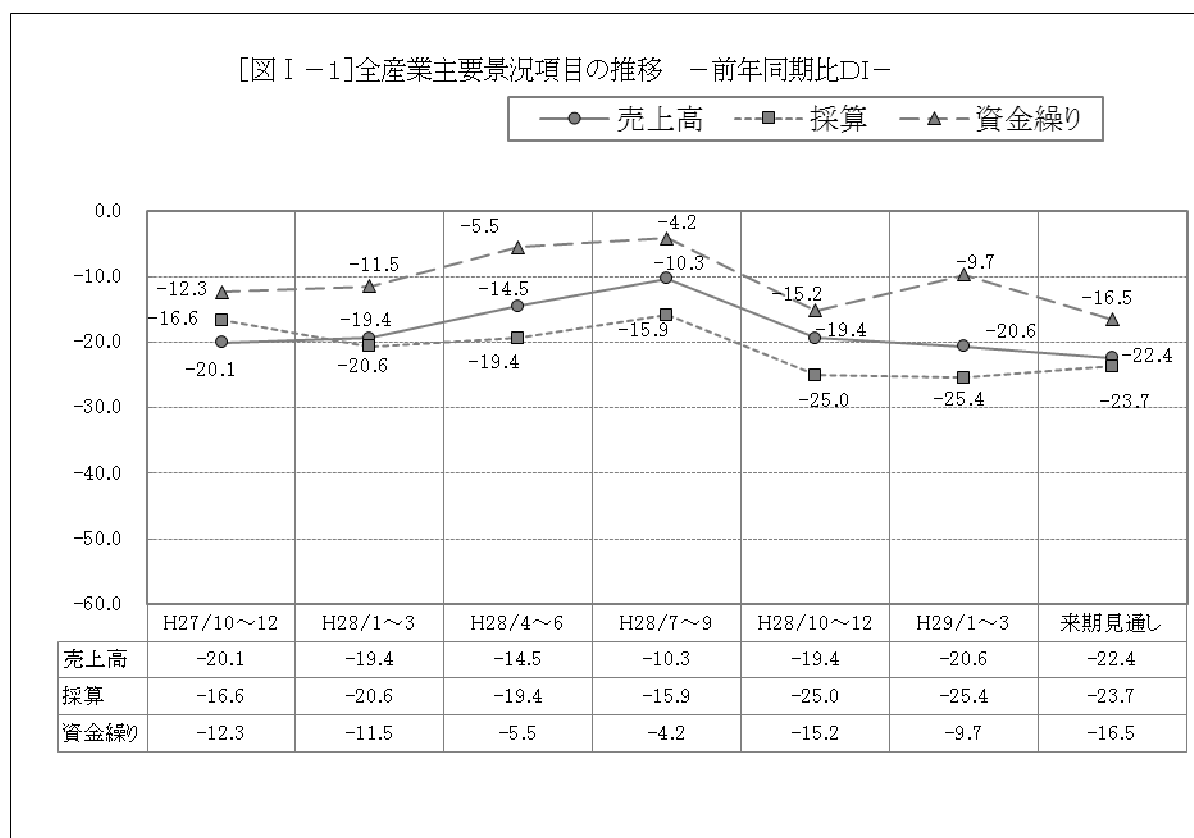
### “業種による景況感のバラツキがあり、先行きの不透明感が増す”

千葉県商工会地区の平成29年1～3月期中小企業景況調査結果によると、産業全体の景況感は[図I-1]に示したとおり、今期売上高DI値は-20.6、前期（平成28年10～12月期、-19.4）比で1.2ポイントマイナス幅が拡大。同採算DI値は-25.4、前期（-25.0）比で0.4ポイントマイナス幅が拡大。また、資金繰りDI値は-9.7、前期（-15.2）比で5.5ポイントマイナス幅が縮小している。

また、前年同期（平成28年1～3月期）調査と比較してみると、売上高DI値は、前年同期（-19.4）比で1.2ポイントマイナス。採算DI値については、前年同期（-20.6）比で4.8ポイントマイナス。資金繰りDI値は、前年同期（-11.5）比で1.8ポイントマイナス幅が縮小している。

今期の製造業と建設業については、売上高、採算のDI値のマイナス幅は拡大している。小売業とサービス業については、季節的な要因がみられ、全ての項目においてマイナス幅が縮小している。また、全産業において、円安による原材料高騰や人材不足等が共通の課題として浮き彫りになっている。














来期（平成29年4～6月期）については、売上高、資金繰りDI値は悪化する見通しとなっており、依然、先行きは不透明である。



## II. 各産業の景況

## 1. 製造業の景況

### “原料価格等コスト上昇で、景気回復に歯止め”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

千葉県商工会地区における製造業の景況は、前期と比べると、売上高 DI 値は 10.8 ポイント、採算 DI 値は 7.2 ポイントそれぞれマイナス幅が拡大。資金繰り DI 値については変化なし。

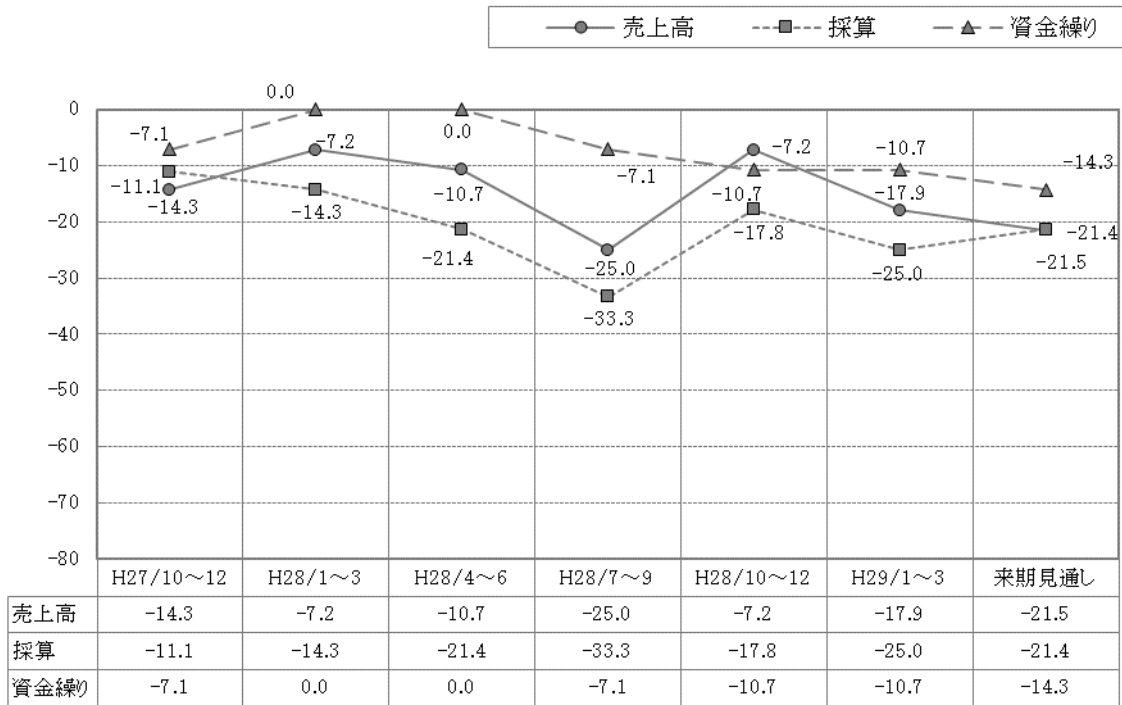
製品ニーズの変化を問題点とする事業者は減少しており、環境変化への対応が改善された。一方で、トランプ米政権の政策運営予測が困難なことから、設備投資の手控えがみられ、需要の停滞を問題視する事業者が増加、引合いは大幅に悪化している。

また、原材料高騰や製品（加工）単価の低下、従業員の確保難、大企業の進出による競争の激化といった問題を抱える事業者は依然として多く、円安のデメリットによる原料価格や電気・ガス料金の値上がりや天候不順が要因となり、回復傾向に歯止めがかかったとみられる。

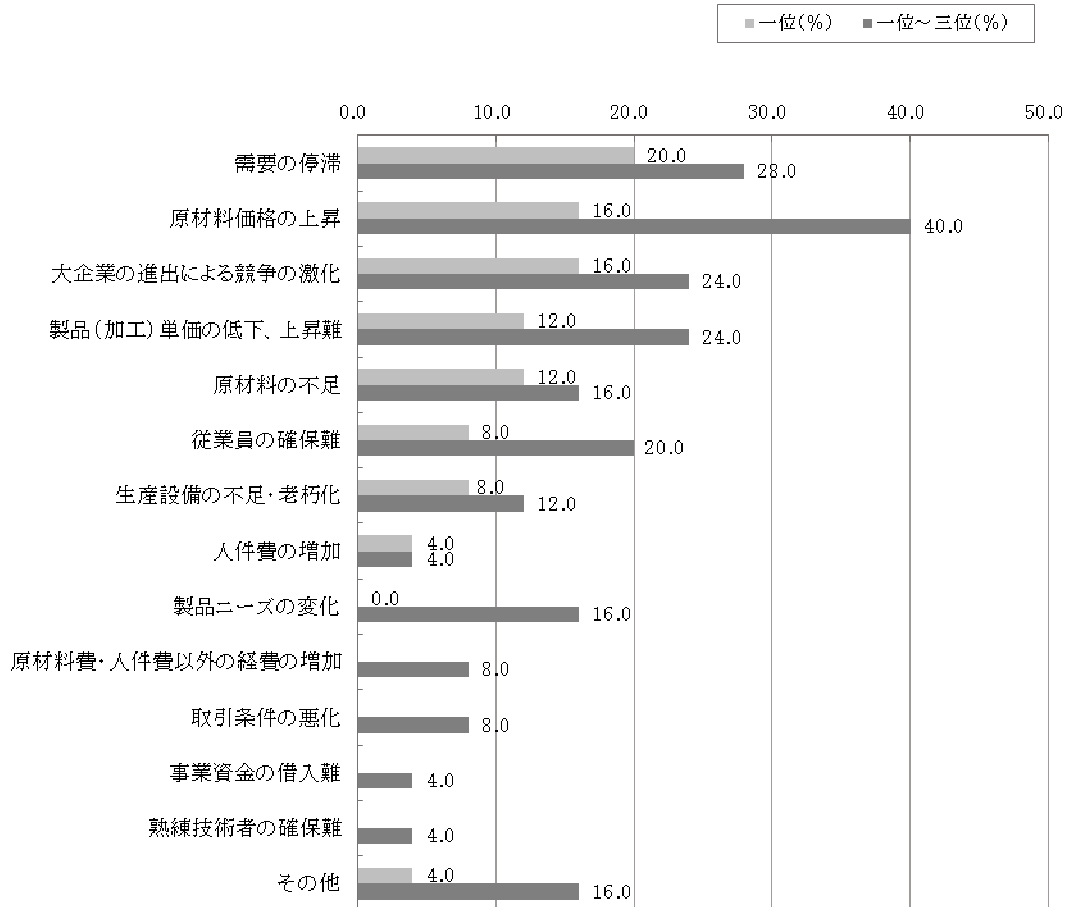
来期についても、トランプノミクスや保護貿易主義など米国の政策による日本経済へのマイナスの影響が懸念され、採算 DI 値は改善するも売上高、資金繰り DI 値については悪化する見通し。

今期は新規設備投資については 2 社が実施。内訳は工場建物となっている。また、来期は 3 社が計画しており、生産設備、OA 機器の導入を予定している。

[図Ⅱ-1] 製造業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI-
















[図Ⅱ-2] 製造業 経営上の問題点の状況



## 2. 建設業の景況

### “公共工事が落ち着き、需要は停滞”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

千葉県商工会地区における建設業の景況は、公共工事前倒しの反動や公共工事が大規模業者を中心に偏り、小規模業者への受注機会が少なくなったことや都市部での建設プロジェクトは活発であるが、地方での建設プロジェクトは低調であることなどから、大企業と中小企業で格差が拡大し、民間・官公共に需要が停滞している。

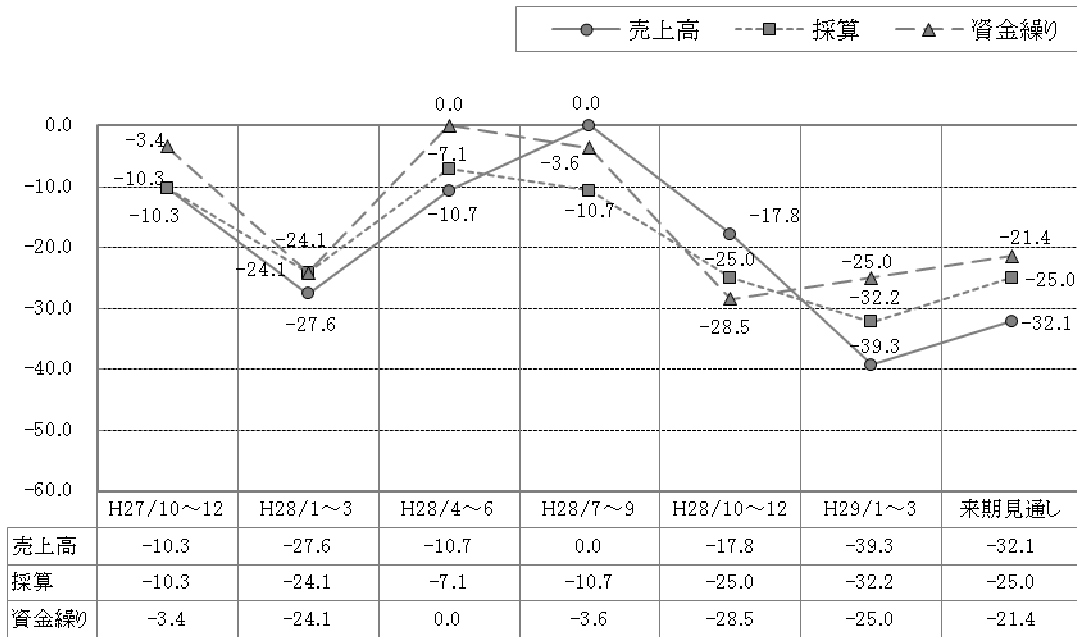
また、従業員確保難を問題とする事業者が大幅に増加しており、オリンピックによる需要拡大を目前に、人手不足が深刻な問題となっている。請負単価の低下、上昇難や大企業の進出による競争の激化を問題視する事業者が依然多いが、下請業者の確保難や取引条件の悪化や材料価格の上昇を問題とする事業者に多少の改善がみられた。

今期の売上高 DI 値は-39.3 ポイント、前期（-17.8 ポイント）比で 21.5 ポイントマイナス幅が拡大。採算 DI 値についても-32.2 ポイントで前期（-25.0 ポイント）比 7.2 ポイントマイナス幅が拡大した。資金繰り DI 値は-25.0 ポイントで、前期（-28.5 ポイント）比 3.5 ポイントマイナス幅が縮小している。

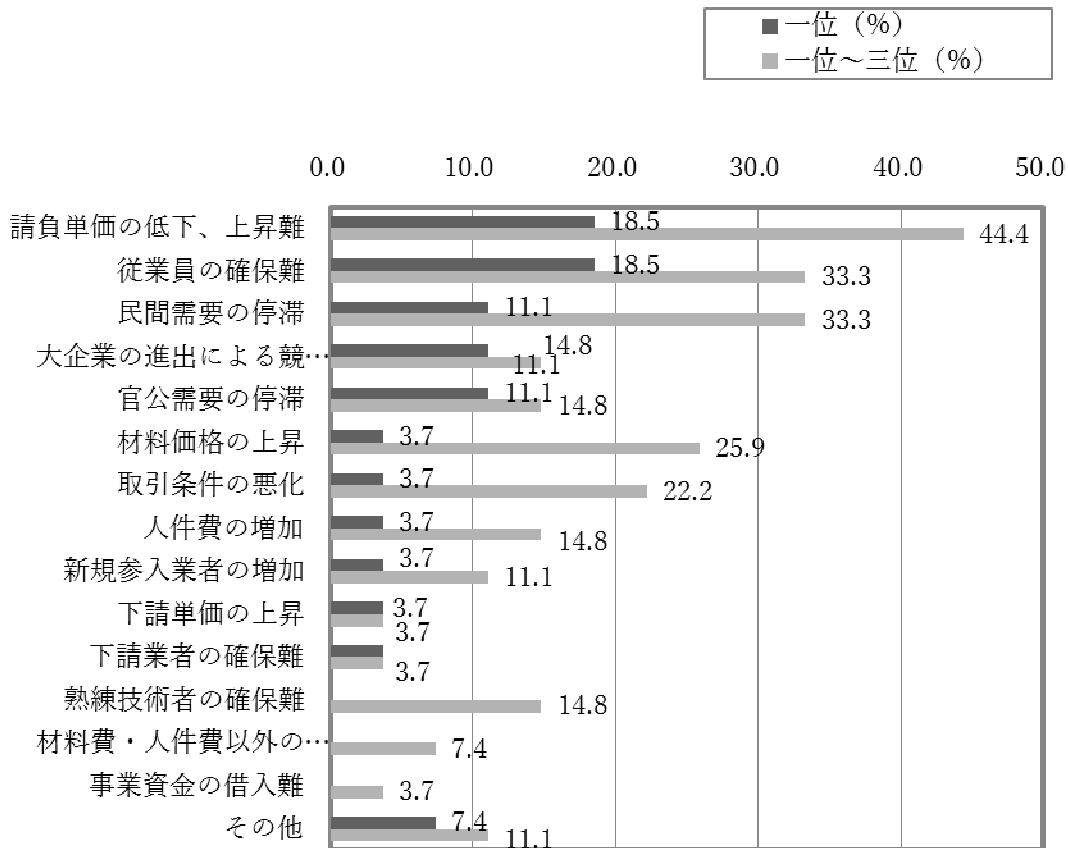
来期については、全項目についてやや改善する見通しであるが、不安材料が多い状況である。

新規設備投資について、今期は 2 社が実施。内訳は建設機械、車両・運搬具となっている。来期計画は 1 社となっており、車両・運搬具の導入を予定している。

[図Ⅱ-3]建設業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI -
















「図表Ⅱ-4」建設業 経営上の問題点の状況





### 3. 小売業の景況

#### “売上高は回復傾向、魅力のあるお店づくりが必須”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

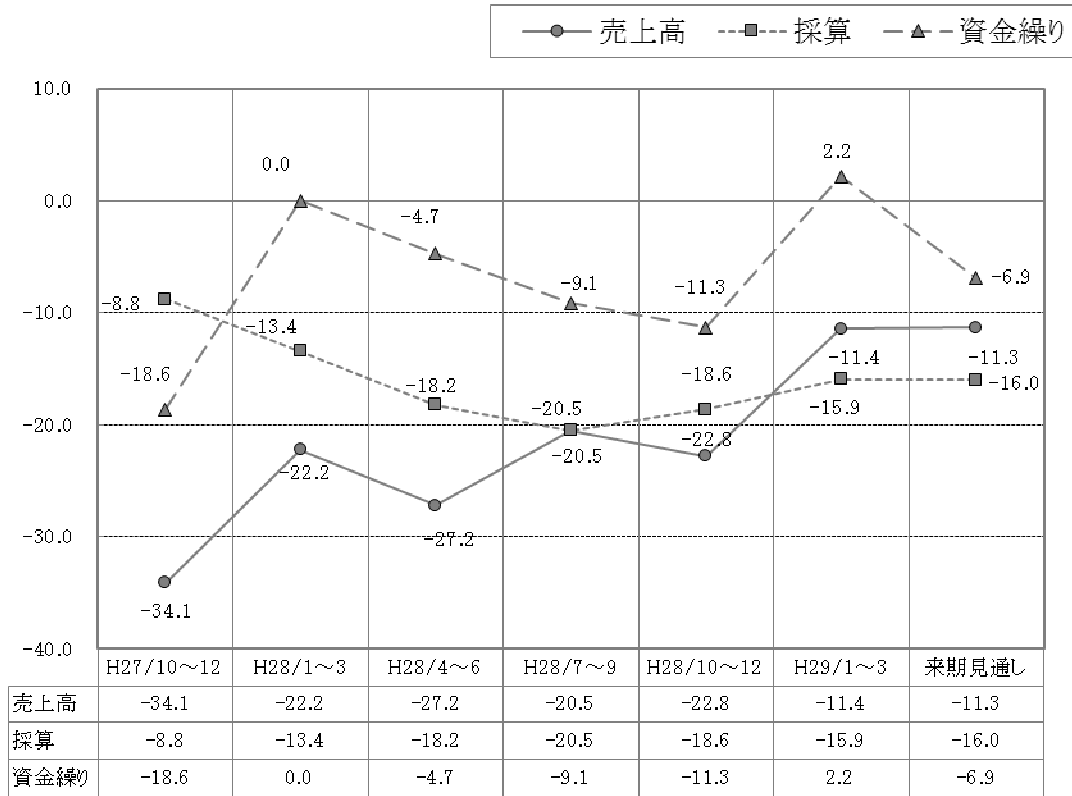
千葉県商工会地区における小売業の景況については、春節による中国人観光客の消費や寒波の影響等プラス要因が多く、売上高 DI 値は-11.4で、前期(-22.8)よりも 11.4 ポイントマイナス幅が縮小している。資金繰り DI 値についても 2.2 で前期(-11.3)から 9.1 ポイントマイナス幅が縮小。採算 DI 値についても-15.9 で、前期(-18.6)から 2.7 ポイントマイナス幅が縮小しており、全項目の DI 値が好転している。また、仕入単価の上昇を問題点とする事業者が減ってきていることから、ある程度は価格転嫁が出来ていると考えられる。

来期についても、資金繰り DI 値についてはやや悪化するも、今期と同様の DI 値を維持していく見通しとなっている。

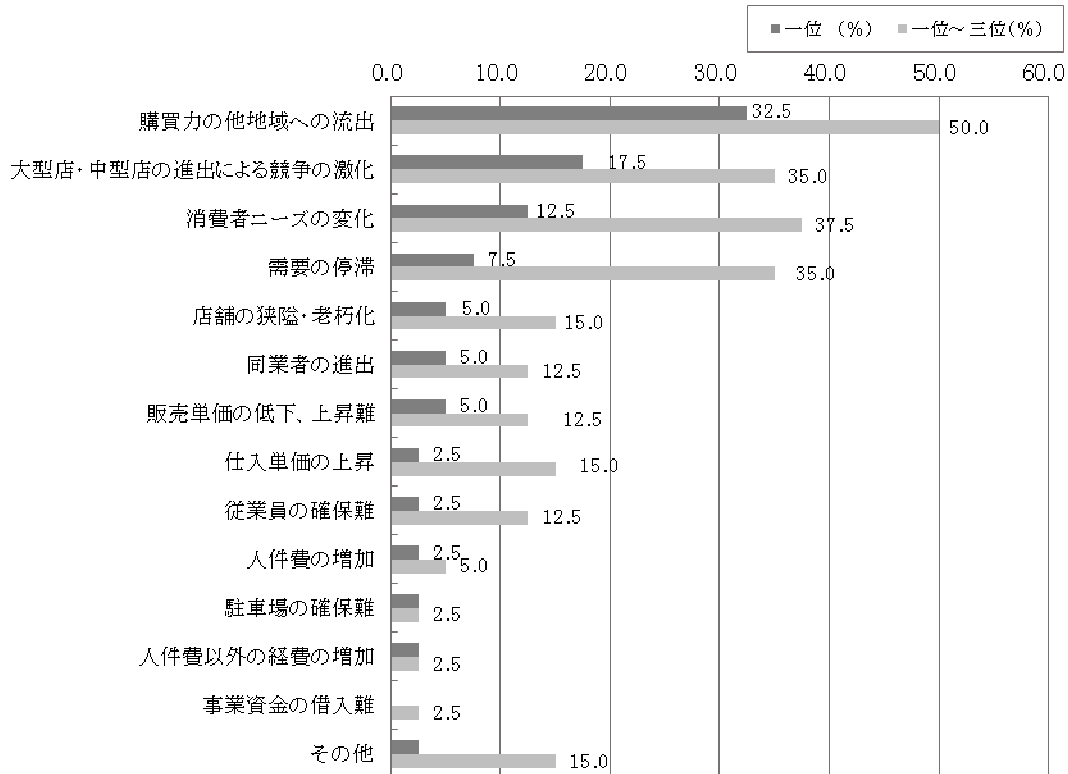
しかし、前期同様、大型店・中型店の進出や購買力の他地域への流出、消費者ニーズの変化、需要の停滞の上位 4 つの問題点をあげる事業者は多く、品揃えや店舗レイアウトの工夫など魅力的な店舗づくりが、引き続きの課題となっている。

新規設備投資については、今期は 3 社が実施。内訳は、販売設備、車両・運搬具、OA機器を導入している。また、来期計画は 2 社で、土地、店舗、販売設備、車両・運搬具などの導入を予定している。

[図II-5]小売業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI-
















[図II-6]小売業 経営上の問題点の状況



#### 4. サービス業の景況

##### “改善するもサービスの見直しによる競争力強化に課題”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

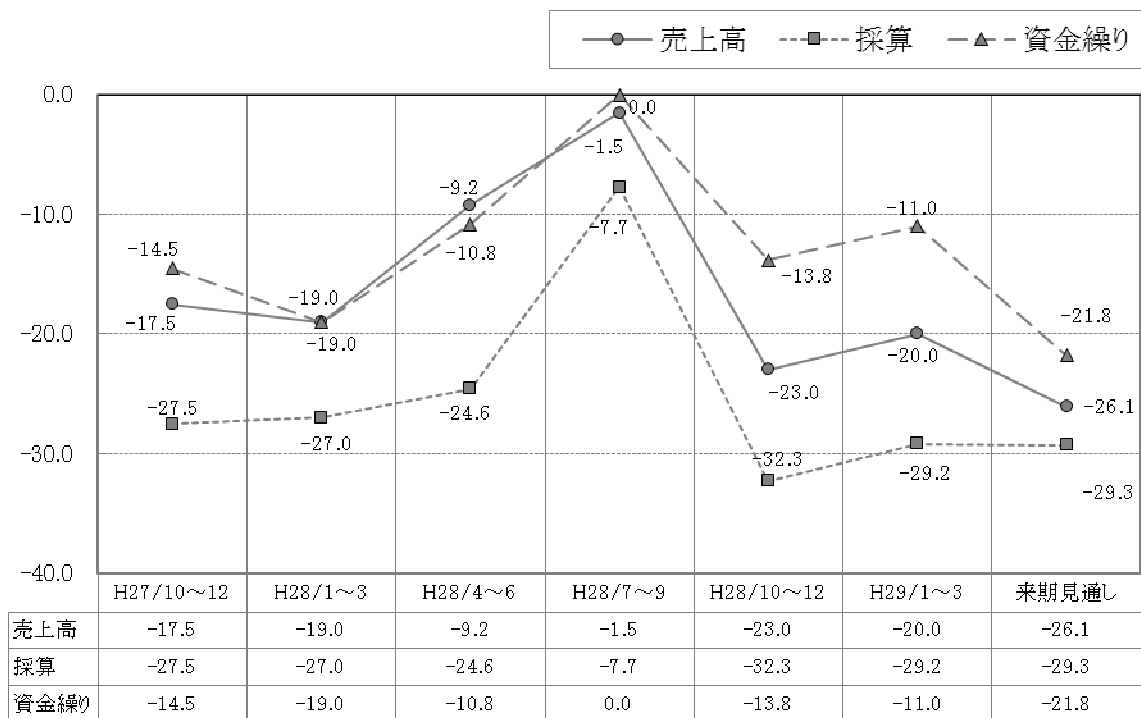
千葉県商工会地区におけるサービス業の景況は、春節による中国人観光客の“コト消費”増加等プラス要因もあり、売上高 DI 値については-20.0 ポイントで、前期(-23.0)より 3.0 ポイント、採算 DI 値については、-29.2 ポイントで前期(-32.3)から 3.1 ポイント、資金繰り DI 値についても-11.0 ポイントで、前期(-13.8)から 2.8 ポイント、全項目でマイナス幅が縮小している。

一方で、需要の停滞や利用者ニーズの変化に加え、大企業の進出による競争激化を問題とする事業者が増えていることから、より一層の差別化と顧客獲得が課題となっている。また、自動車整備業を中心に従業員の確保難による人手不足が大きな問題となっている。

来期については、売上高、採算、資金繰り DI 値は、それぞれ悪化する見通しである。

なお、新規設備投資については、6 社が実施。内訳は、建物、サービス設備、付帯施設となっている。また、来期の計画では 6 社が、サービス設備、車両・運搬具、付帯施設などの導入を予定している。

[図Ⅱ-7]サービス業主要景況項目の推移 ー前年同期比DIー



[図Ⅱ-8]サービス業 経営上の問題点の状況

